

学校法人 滋慶文化学園 福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【平成30年6月14日実施】

平成29年度自己点検自己評価(平成29年4月1日～平成30年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名【別紙委員名簿参照】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1			適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1	
1 教育理念・目的・育人人材像	1-1-1 理念・目的・育人人材像は、定められているか	4	<p>学校法人滋慶文化学園 福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校は、学校法人滋慶学園グループに属し、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッション(使命)とする。</p> <p>「3つの建学の理念」 ①実学教育 ②人間教育 ③国際教育 を実践し、</p> <p>「4つの信頼」 ① 業界の信頼 ② 高校の先生の信頼 ③ 学生と保護者の信頼 ④ 地域の信頼 を得られるように学校運営を行う。</p> <p>建学の理念に基づき、福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校は、『福岡からメジャーへのデビュー・就職』を目指し、音楽・エンターテインメント業界の1300社の企業とともに人材育成を行う。 現在、音楽・エンターテインメント業界を取り巻く社会の環境は大きく変化しており、職業の現場で求められる知識・技術の高度化や、より付加価値の高い人材の必要性を背景に、本校では、2年制課程のみならず、3年制課程も設置し、また、『産学連携教育システム』により、様々な変化にも対応できる人材の育成を実現する。</p>	<p>「学校法人滋慶学園グループ」昭和51年の創立以来、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションに掲げ、全国に専門学校・教育機関を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、建学時から変わらない「3つの理念」(実学教育、人間教育、国際教育)と「4つの信頼」(業界からの信頼、高校の先生からの信頼、学生・保護者からの信頼、地域からの信頼)を実践することで、理想の教育実現を目指す。 医療・福祉・美容・調理・製菓・バイオ・スポーツ・クリエイティブ・エコ・音楽・ダンス等、多岐にわたる分野で北海道から福岡まで70校を有する。</p> <p>「実学教育」 スペシャリストの時代に即し、産業界に直結した専門学校として知識、技術、ビジネスマインドを持った業界が求める即戦力の人材を育成します。</p> <p>「人間教育」 「今日も笑顔で挨拶を」を標語に掲げ、思いやりの気持ち、コミュニケーションの大切さを学び、自立した社会人としての人間力(身構え、気構え、心構え)を身につけます。</p> <p>「国際教育」 日本人としてのアイデンティティを明確に持ち、価値観や文化の違いを尊重して、より広い視野でものを見ることができるよう、真の国際的な感性を養います。</p>	4・3・2・1	<p>■適切に実施されている。 ■理念に基づき学校経営されている。 ■「人間教育」「今日も元気に挨拶を」先日、学園祭にお邪魔した時、在校生の掛け声がとても元気よく、活気があると思いましたが、その反面、保護者や地域の方に元気に挨拶が出来ていたとは思えません。現代っ子の一つの特徴であると思います。登校時に先生に挨拶するのは当たり前です。一般人の出入りがある行事の時、元気に挨拶できる学生は社会に出て大丈夫でしょう。挨拶は心の強さも表すと思います。</p>
	1-1-2 育人人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか					
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか					
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか					
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4	<p>諸環境の変化に対応できるように、事業計画については、滋慶学園グループが毎年、長期・中期・短期展望をし、事業計画を作成している。それを受けて、滋慶COMグループが短期事業計画を作成するが、そのもとになるのが、滋慶COMグループに属する各学校が作成する短期事業計画であり、毎年作成しているこの事業計画書が各学校における運営の核となるものである。</p> <p>事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得ることになっている。それを受け、各学校では毎年1月～3月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための研修も行っている。事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々が明確に示されている。</p> <p>運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われる。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。学校が最も大切にしていることとして、滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また関わるすべての人が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、コミュニケーションの重要性を確認している。</p>	<p>各学校における事業計画書は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、すべての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している。</p> <p>人材の育成並びに、円滑な学校運営のために、職員全員が、事業計画における、理念に始まり、方針、目標、計画までの理解を深める、と同時に常に自分自身の職務を明確に理解する必要があるため、朝礼、全体会、研修、面談などを通して、事業計画の確認に努めていくと同時に、意思決定システムの中での決定権者の規定や規則を明文化を図り、職員に周知していく。</p> <p>また、職員だけではなく円滑に運営していくには、システムの開発を含めて関連企業との関係も重要になってくる為、更に関係を強化していく特に予算に関しては、財務担当の関連企業との関係をさらに深く保つ。</p>	4・3・2・1	<p>■適切に実施されている。 ■精度の高い運営方針である。 ■円滑な学校運営のためには、全職員の共通理解を図ることが求められる。そのためにも、確認と共に規則等の明文化を図ることが重要だと思う。</p>
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか					
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか					
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか					
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか					
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか					
	2-7-1 情報システム化に取り組む、業務の効率化を図っているか					

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1			適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1	
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	<p>「職業人教育」は常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、育成人材像は正しく方向づけられないと考えており、業界の人材行動を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。</p> <p>本校は教育システムとして、独自の「産学連携教育システム」を構築しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界で即戦力となりうる人材を育成、輩出できている。</p> <p>教育目標達成のためのカリキュラムは、入学前から卒業まで、体系的に編成されているが、常に教育部会等で研究、見直し等を行っている。カリキュラムは学科に関わるもののみならず、社会的・職業的自立を目指し、「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。</p> <p>授業改善、教職員・講師の資質向上等を目的とし、授業評価を前期・後期にて実施しているが、これを通して講師や学生の状況を正確に把握し、総合的な判断ができる要因となっている。</p> <p>成績評価・単位認定の基準を明確にし、学生指導を行っているが、明確な基準と共に、柔軟な対応ができる余地を残すことで、すべての学生が学科の目標を達成した上で、進級・卒業できる体制を作っている。資格取得については、業務を行う上で必要な資格、就職に有利な資格という範囲で取得に向け、支援を行っている。</p>	<p>教職員の目標として、1. 就職率 100% 2. 退学率 0%(入学者は全員卒業してもらう)を掲げ、その達成のために構築した2つの重要なシステムを構築している。第1のシステムは入学前の自己発見→自己変革→自己確立という、キャリア教育と、動機づけ・目的意識づけプログラムである。入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、モチベーション向上を果たしている。第2のシステムは、企業と連携して、即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につけるための教育システム「産学連携教育システム」である。これには、次の6つが挙げられる。</p> <p>①企業プロジェクト ②ダブルメジャー・カリキュラム ③業界研修 ④海外実学研修 ⑤特別ゼミ ⑥就職・デビューである。</p> <p>また教育システムのさらなる開発のため、滋慶COMグループの音楽系全校から構成する「パフォーマンスアーツ教育部会」を設置し、システムの共有化、レベル向上化を図っている。主な研究内容は、</p> <p>①教育指導法・技法の開発 ②カリキュラム検討 ③生涯教育プログラム ④教職員研修 ⑤国際教育システム開発 ⑥イベント・卒業研究の運営等である。</p>	4・3・2・1	<p>■適切に対応している。</p> <p>■特に近年の就職活動への取り組みの向上、資格取得への前向きな取り組みの向上が見られる。</p> <p>■就職率100%はこの分野では素晴らしいと思う。</p> <p>■講師に向けてのゼミ(指導法など)なども期待します。</p> <p>■教育目標達成のためには、教職員の資質向上は重要だと思う。そのための研修システムは作成されているか。</p>
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか					
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか					
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか					
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか					
	3-9-4 授業評価を実施しているか					
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか					
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか					
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか					
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか					
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか					
3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか						
3-12-3 教員の組織体制を整備しているかあるか						
4 学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	3	<p>就職においては開校以来、就職率(就職者÷就職希望者)100%を達成しているが、専門就職率(業界就職者数÷就職者数)・就職対象率(就職者数÷在校生数)の向上も課題として取り組んでいる。特に就職コースにおける就職対象率は85%程度であり入学から卒業時まで職業人教育の実践を就職活動⇒就職へ繋げていくことが業界からも要求されている。</p> <p>デビューにおいては希望者全員がデビュー(芸能プロダクション等と契約)に至ってはいないが、決定者は50%程度に達しており学修成果としては一定の成果は出ていると思われる。在校時の2年間だけではデビューへの限界もあり卒業後のフォロー体制の充実もさらなる向上が課題と言える。</p>	<p>就職・デビューについては、入学前教育(プレスクール)での指導が必要であり入学予定者には事前授業を実施している。内容は業界で求められる技術や知識は勿論だが、勤労観や職業観といったキャリア教育についても注力している。プロミュージシャン科やダンス&アクターズ科の主な卒業進路におけるデビュー決定(芸能プロダクションとの契約)は学内オーディションでの企業の招聘や企業実習で多くのチャンスを設けることで成果はでており、特にテーマパークパフォーマーやダンサーについては顕著である。</p> <p>※免許・資格には、協会等が業界従事者資格として取得の傾向にはあるが、義務付け等には至ってはいない。しかし就職応募の際の他学歴者との差別化においても専門学校生としての独自性が出せる為、取得については奨励している。</p>	4・3・2・1	<p>■保護者として一番心配な項目です。先日、会議の全体会の時、各校発行の新聞を頂きました。いい情報紙を出しているのに保護者は見れないのか。こういう情報紙を見せていただけたら保護者も安心感があると思う。SNSだけの情報では学校や子供の活動を把握しきれない保護者は多数いると思う。</p> <p>■活発に精力的に取り組んでいると感じる。</p> <p>■AIの導入など学び方の工夫による教育効果の向上が必要。</p> <p>■デビューに関して50%程度、ほぼ適切に対応している。</p> <p>■3の項目と同様な意見となるが、この流れにより就職率の向上、資格取得者の増加が見られる。</p> <p>■現場で卒業生と会う機会が多くなった。ちゃんと社会人として業界人として卒業している表れだと思う。業界の方の評価も高いと感じる。</p>
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか					
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか					

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1			適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1	
5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3	<p>本校では、学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことで支援に繋がると考える。しかし、支援はあくまでも支援である。例えば、健康の維持は学業目標達成には欠かせない事項であり、本校でも健康診断にとどまらず、多くの支援体制を築き上げているが、学生本人が健康管理についての自覚を持たない場合、支援は効果がない。それゆえ、学生支援はまず学生の自立的行動を促すことから始めている。学生支援には、</p> <p>①就職、デビュー ②学費 ③学生生活 ④健康</p> <p>などの分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者を置いている。</p> <p>①就職についてはキャリアセンター、デビューについてはデビューセンターを企業からの求人・オーディション情報の窓口として設置している。また担任との強い連携をとりながら、就職、デビューの相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。</p> <p>②学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。また、奨学金専任スタッフを配置して、奨学金返還率向上の取組を行っている。</p> <p>③学生生活については、担任より行うが、それ以外にもSSC(スチューデント・サービス・センター)という悩みや相談を受ける専門部署を置き、支援している。</p> <p>④健康については、滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニック福岡が担当し、在学中の健康管理を支援している。また、学生の課外活動であるサークル・同好会について、学校が年間予算を計上し、担当者を配置して、支援し、学生満足度アップに貢献している。</p>	<p>滋慶学園グループでは、「学生はゲスト」というコンセプトがあるが、本校でもこのコンセプト通り、学生を第一に考え、様々な支援体制を整備している。学生専用寮、専用レストラン、クラブ活動、サービスセンター、サポートセンター、附属クリニックなど授業以外の支援体制を整備しているが、その中でも、「就職、デビュー」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では非常に力を入れており、キャリアセンター、デビューセンターという専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。両センターは、業界現場での実践研修である「業界研修」の指導から、個別相談、就職・デビュー対策講座、就職・デビュー支援イベント開催、就職斡旋、オーディション情報の案内等々、就職・デビューに関するあらゆる支援を行っている。また、求人情報等を学生が自宅のパソコンでも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」、一斉メールなどシステムの構築をし、迅速な対応ができるように支援している。このような支援体制の結果、就職率(就職者/就職希望者)は100%を達成し、高い数字を誇っている。「就職」と並ぶ重要項目である、「教育」については、教育環境を整備し、成果を上げている。</p> <p>即戦力の人材を育成するための施設・設備、機材等々を完備し、また業界ニーズとブレのないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業など、オンリーワンを目指す学校として十二分な体制を確立している。また、精神的・肉体的に通常のクラスでは授業についていけない事情を抱えた学生のため、支援クラスという特別クラスを設け、専任担当者を配置し、サポートをしている。さらに、ひとりひとりを大切に支援を目指す。</p>	4・3・2・1	<p>■まだまだ課題の残る項目であるが、各担任と講師と連携を強め、向上を図ってもらいたい。</p> <p>■健康診断、学生に行き渡っていない。ほぼ適切に対応している。</p> <p>■子供の健康、体調について心配しない親はいないと思う。特に他県に住んでいる親としては、学校で健康管理をしていただける事に心より感謝している。</p> <p>■教務スタッフの皆さんは、学生にきめ細やかなフォローをされていると思う。</p> <p>■国が給付型奨学制度を進めることから、貴校独自の奨学制度が必要。</p>
	5-17-1 退学率の低減が図られているか					
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか					
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか					
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか					
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか					
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか					
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか					
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか					
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか					
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか						
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか						
6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4	<p>本校は、音楽・エンターテインメント業界で即戦力となり得る人材育成を目的としており、そのための知識・技能を身に付けるための授業に欠かせない実習室(施設・設備、機材等)の整備は重要であるが、協力企業より常に業界の動向についてアドバイス頂きながら整備している。学内の教育環境に留まらず、学外の環境(インターンシップ、学外実習、海外実学研修)も重要であるためキャリアセンター、デビューセンター、教務部、国際部が一丸となって、その整備を行い、人材育成及び教育効果につなげている。</p> <p>また防災について教職員が常に災害を意識している。常に学園作成の防災マニュアルを携帯し、また安全衛生委員会を設置し安全確保のために問題解決に取り組んでいる。また教職員、学生の防災訓練を実施し、地震や火災等の際の避難訓練経路を確認するなど、できる限りの防災体制を整備しチェックしている。</p>	<p>地域ナンバーワン及びオンリーワンを目指す本校にとって、教育環境である施設・設備・機材等は非常に重要な要素である。また全国区のデビュー就職を目指すにあたり、常に業界企業の動向を注視ながら最良のものを選択している。整備については毎年、事業計画で計画し、予算計上の上、計画通りに購入・更新等を行っている。これ以外の学外教育環境も教務部、キャリアセンター、デビューセンター、国際部が一丸となって整備しており、また在学中よりCOMアーティストバンクを活用したデビューシステムや就職活動システムを構築しており、これは本校の大きな強みと考えている。</p> <p>また防災について、教職員対象の防火訓練、教職員・学生対象の避難訓練、AED講習を実施し、災害や人命救助補助に備えている。そのための安全衛生委員会を中心にマニュアルを整備し、教職員の役割分担作成・確認、学生への情報提供など、体制整備を継続している。</p>	4・3・2・1	<p>■学生同士の学びの空間づくりが必要。</p> <p>■以前に比べて機材等のメンテナンスがよく出来ている。修理など迅速に対応されている。</p> <p>■国際部が一丸となっている。適切に対応されている。</p> <p>■新しいイベントホールの完成に伴い、学生の意欲向上が顕著である。また、安全管理への意識向上も見受けられる。</p> <p>■地域の人との関わりは、コミュニケーション力を身につけるためにも必要だと思う。ぜひ地域力を活用して欲しい。</p>
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか					
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか					
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか					

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1			適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1	
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	4	<p>本校は、福岡県専修学校各種学校協会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO入試等)を遵守している。また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学校募集ができるように配慮している。</p> <p>入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考後は、「入学選考会議」により、可否を決定する。なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接選考」及び「書類選考」であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するもので、入学試験という名称のもと、学科試験を行うものではない。</p> <p>学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中で追加徴収を行わない。</p>	<p>学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。</p> <p>広報活動では「産学連携の授業や取組み」「卒業生の活躍」「学校の特色を理解してもらう」ことを強化している。 本校は専門就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前に職業イメージをどれだけ明確になっているかが大切と考え、体験入学や説明会への複数回参加を促し、充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。</p> <p>教育成果として、高い専門就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果はかなり高いと考えるが、それゆえ、過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、事務局長、広報リーダー等が常にチェックしている。</p>	4・3・2・1	<p>■適切に対応している。 ■「福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校」福岡県での知名度は上がっていると思うが、他県としてはどうか。実際に、私も高校3年生の志望校決めの時、担任より相応な心配をされた。「AO入試」の手続きも学校から「待った」がかかった。子どもたちは色々調べ、希望を持ち学校を選びます。一人でも多くの生徒を見込むのであれば他県の高校にも視野を広げるべきだと思う。 ■過大にならない程度のTVCM等されてもいいのではないかな。 ■システムとして素晴らしいと思う。</p>
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか					
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか					
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか					
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか					
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか					
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	<p>財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。毎年、次年度事業計画を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。 5ヶ年の予算は、5ヶ年を見越した中長期的事業計画内で、新学科構想、設備支出等について計画し、将来の学生数、広報・就職計画を鑑みながら予測し、収支計画を作成するが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実に即した予算編成となっており、健全な学校運営ができていると考えている。</p> <p>会計監査は、法人及び学校の利害関係者に対して、法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために、第三者による監査人が法人とは独立し計算書類が適切かどうかを監査することを意味する。</p>	<p>予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。 ①正確かつ実現可能な予算の作成予算は短期的、中長期的の2種類がある。短期的は次期1期間のもの、中長期的は2～5年間のものである。当学校法人及び学校では、短期的と中長期的の両方を事業計画書として作成し、短期的視野と中長期的視野の2つの観点から予算編成している。短期的な予算編成は当年度の実績を基礎に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものと乖離した場合はそれを修正する必要がある。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすことになっている。これにより、短期的にも中長期的にも正確かつ実現可能な予算編成を組むことができる。</p> <p>②①のための体制作り①のように実現可能な予算作成するためには、その体制作りが必要になる。事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者と学園本部が協議し予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。作成した決算書、事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係者の閲覧に供することとなる。</p>	4・3・2・1	<p>■学校法人として適切である。 ■健全な財務であると感じる。</p>
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか					
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか					
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか					
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか					
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか					

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1			適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1	
9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	<p>法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかは次の各調査等においてチェックできるようにしており、評価結果及び教育情報の情報公開を行っている。</p> <p>①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査 ④専修学校各種学校調査 等である。</p> <p>また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 (A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ)</p> <p>(B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(滋慶COMグループ)</p> <p>滋慶学園グループ、滋慶COMグループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健在な学校(学科)運営ができるようにしている。法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。加えて外部機関の「TRUST-e」より、ホームページの内容について、国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検証を受けている。</p>	<p>3つ教育「実学教育」、「人間教育」、「国際教育」で「職業人教育を通じて社会に貢献する」という建学の理念を実践し、4つの信頼(「業界の信頼」、「高校の先生の信頼」、「学生・保護者の信頼」、「地域の信頼」)を確保するためにもコンプライアンス推進をはかる。具体的には、すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせることにした。委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発の予防策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象として、コンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。今後は、コンプライアンス相談窓口の設置が必須であると考ええる。</p> <p>※TRUST-e：インターネット上のウェブサイトユーザとの信頼関係を築くこと、またそれを実現する事によって、インターネット業界の更なる発展を目的とした、米国のカリフォルニアの非営利団体。 学内委員会として、コンプライアンス委員会、監事会、個人情報保護委員会、広告倫理委員会等を設置し法令の遵守に努めている。</p>	4・3・2・1	<p>■コンプライアンス等の周知は適切に実施されている。</p>
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか					
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか					
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか					
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか					
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか					
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか					
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	<p>本校には、滋慶学園グループの「4つの信頼」(①業界の信頼 ②高校の先生の信頼 ③学生・保護者の信頼 ④地域の信頼)というコンセプトがある。この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。例えば、行政や業界企業とタイアップして行う「骨髄移植推進キャンペーンミュージカル」の制作と公演、また地域の方々を対象とした学園祭での交流、あるいは地域の方々と共同で行う防犯活動や清掃活動等々を通じ、「業界の信頼」、「地域の信頼」に繋がっている。また、在校生が高等学校からの依頼で行う文化祭運営支援や芸術鑑賞会は高等学校より好評を得ており、スタッフが高校へ出向いて行う特別講義等では、その高い専門性と職業観向上の講義内容から「高等学校の先生の信頼」に繋がっている。滋慶学園グループが推進する「地球温暖化防止対策」運動では、節電、冷房温度28度設定、階段利用(2アップ3ダウン)や、イベント等におけるゴミ削減、資源有効利用等々は、学生本人のみならず、来校された保護者の方々からも高い評価を頂戴し、「学生・保護者の信頼」に繋がっている。特別なことをするわけではなく、滋慶学園グループが掲げる「4つの信頼」の獲得を目指すことが、すなわち社会貢献を果たすことに繋がっていると考えている。</p>	<p>教職員及び学生たちが、常に社会貢献を意識した活動を行っている。例えば、① 福岡市、警察と連携して行う飲酒運転撲滅運動②業界企業とタイアップして行う各種音楽・エンターテイメントイベント ③テレビ局や地域と協力して行う県民・市民イベント ④各種団体からの依頼で取り組むがん患者様とイベント「リレーフォーライフ」⑤NPO法人など各団体とともに行う「骨髄移植推進活動」⑥学校や教育機関等に出張して行う「芸術鑑賞会」⑦地域の方々も対象とした「学園祭」⑧近隣公園の清掃 等々、年間を通じ、教職員や各専攻の学生たちが、それぞれ特徴を活かし、幅広く、かつ意義のある活動を行っている。その活動が、「業界の信頼」、「地域の信頼」、「高校の先生の信頼」、「学生・保護者の信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得に繋がりが、その結果が社会貢献を果たすことに繋がっている。今後は、学校の施設や教育ノウハウ等を更に活かし、多様な社会貢献へ発展させていく考えである。</p>	4・3・2・1	<p>■積極的に取り組んでいると感じる。 ■卒業後の社会貢献について、学び続けてほしい。 ■地域の祭り等に学生の協力があり、大変喜ばれている。今後もぜひ協力してほしい。</p>
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか					
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか					